

耳納の郷 地域密着型サービス自己評価票（網掛け部分は外部評価も行う調査項目） 取り組んでいきたい項目には「1」が入っています。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
			理念に基づく運営 1～5 (自己 1～24・外部 1～14)	自己評価24項目・外部評価14項目	16	
理念に基づく運営	1		理念の共有(自己 1～3・外部 1～2)	自己評価3項目・外部評価2項目	2	
		1 外部 評価 1	地域密着型サービスとしての理念【外部評価】 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念は作り上げたが、地域の中での暮らしとしての理念とはなっていない。	1	地域密着型としての理念を作る必要がある。
		2 外部 評価 2	理念の共有と日々の取り組み【外部評価】 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、朝礼の際管理者、職員で唱和し、確認や意識付けを行っている。	0	
		3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	各ユニット内に理念を掲げ、常に目に入るようにしている。また、月一回のホーム便りにも毎回掲載している。	1	理念が記載されたひまわり館だよりを配布しているが浸透方法の検討が必要
		2	地域との支え合い(自己 4～6・外部 3)	自己評価3項目・外部評価1項目	2	
		4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームの行事などに地域の方にも来ていただき、その際気軽にホームに立ち寄っていただくよう声を掛けている。日々の散歩や買い物の際にも気軽に声を掛けていただき、柿や野菜などを頂いたりして、日常的な付き合いは出来ている。	1	気軽に立ち寄って頂けるような環境作りや働きかけを行って行きたい。
	5 外部 評価 3	地域とのつきあい【外部評価・重点】 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	道路愛護、運動会などに参加し、地域の人々との交流に努めている。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでほしい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営	2 支地域 合この	6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地区会合のとき支援できることがあれば協力したいことを伝えている。しかし、なかなか馴染めない。	1	地域の高齢者の暮らしについては、今のところ取り組めておらず、今後は役に立てるように努力していきたい。
	3	理念を実践するための制度の理解と活用(自己 7~11・外部 4~7)		自己評価 5 項目・外部評価 4 項目	5	
	3 理念を実践するための制度の理解と活用	7 外部評価 4	評価の意義の理解と活用【外部評価・重点】 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を活かして、改善に取り組んだところもあるが十分ではない。	1	自己評価、外部評価の意義については知識不足ですべての職員が理解してるとはいえない。
		8 外部評価 5	運営推進会議を活かした取り組み【外部評価・重点】 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームでの活動報告や利用状況などを地域、行政、家族の方に分かりやすく説明している。また、地域の方との情報交換の場になっている。	1	運営推進会議の内容を全スタッフに報告しておらず、全スタッフが理解しているとはいえない。改善の必要がある。
		9 外部評価 6	市町村との連携【外部評価・重点】 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者についての相談など気軽に市役所に相談しており、よい関係ができていると思う。市町村と共にサービスの向上に努めている。	1	市の窓口にもっと気軽に行き来できるような関係を作って行きたい。
		10 外部評価 7	権利擁護に関する制度の理解と活用【外部評価・追加】 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度についてはまだまだ知識不足であり、現在講習会などで学んでいる。	1	今後成年後見制度についての知識を身につけ必要な人に活用できるようにしていきたい。
		11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会などで学習中である。	1	ホーム内での虐待が起こることがないようにしっかりと知識を身につけておく必要がある。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
		4	理念を実践するための体制(自己 12~18・外部 8~10)	自己評価7項目・外部評価3項目	2	
理念に基づく運営	4 理念を実践するための体制	12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約の際ホームの方針を十分に説明し利用者や家族の不安や疑問を尋ねて理解、納得した上で契約していただいている。	0	
		13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が不満を訴えることが出来るように意見箱を設置している。また、利用者と接している中で不満などを引き出しスタッフで話し合っている。	1	意見箱の活用はまったくなされておらず、気軽に意見、不満、苦情などを訴えることが出来る環境ではないのではないかとと思われる。検討が必要である。
		14 外部評価8	家族等への報告【外部評価・重点】 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一回の便りで利用者の暮らしぶりや健康状態などは伝えている。また、1~2ヶ月ごとに出納帳のコピーを送付しており、金銭に関するトラブルなどは全くない。	0	
		15 外部評価9	運営に関する家族等意見の反映【外部評価・重点】 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が不満や苦情を訴えることが出来るよう意見箱を設置している。また、家族がスタッフに気軽に話せる環境作りに努めている。	1	意見箱の活用はまったくなされておらず、気軽に意見、不満、苦情などが無いのか訴えることが出来る環境ではないのか検討の必要がある。
		16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングの際スタッフの意見や提案を聞き、話し合っている。	0	
		17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者が勤務の調整に努めている。また、入居者の状態の変化に伴い早出、遅出勤務をつけることで柔軟に対応している。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に 基づく 運営	4	18	職員の異動等による影響への配慮【外部評価】 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に行うように努めてはいるが、退職者、出産や勤務条件の変更による異動時は事前に十分な説明を行うよう努めている。20年度は退職者や異動があったが問題なく受け入れが出来た。	0	
	5	人材の育成と支援(自己 19~24・外部 11~14)		自己評価6項目・外部評価4項目	5	
	5	19	人権の尊重【外部評価・追加】 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集・採用に関しては法人総務課で行っている。採用後は快く受け入れ、指導者をつけ指導を行っている。又、法人が行う新人研修に参加してもらい、早く職場に馴染めるよう努めている。色々な資格を習得するために機会を与えている。	1	認知症の実務研修や介護支援専門員の試験を受けている。今後も研修や資格習得などへの参加の機会を与えたい。
		20	人権教育・啓発活動【外部評価・追加】 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	自己研鑽を行ったり、ミーティングの時に注意し合い検討などを行っている。	1	研修などがあれば積極的な参加を心がけてほしい。
		21	職員を育てる取り組み【外部評価】 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修で社会人としての基礎を学び、その後は段階に応じて研修を受ける機会を設けている。	1	スタッフの自主的な参加が少なく今後はスキル向上のために積極的に参加していくよう努めたい。
		22	同業者との交流を通じた向上【外部評価】 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会などを通して同業者と交流する機会を持っており、勉強会や情報の交換を行っている。	1	ネットワーク作りが十分とはいえず、今後はサービスの質の向上に向けたネットワークを充実させる必要がある。
		23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	業務終了後の雑談の時間を設けている。また、犬の散歩や利用者や散歩をし外気に触れることでストレス解消を行っている。職員が働きやすいよう設備や環境に配慮している。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
	5 と人材 支援の 育成	24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務の調整を行い、研修を設けたり参加への働きかけを行っている。運営者は積極的参加を働きかけている。	1	向上心をもっている者に対しては、正職採用試験に推薦したい。
安心と信頼に向けた関係作りと支援 1～2(自己 25～34・外部 15～16)				自己評価10項目・外部評価2項目	1	
安心と信頼に向けた関係作りと支援	1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 (自己 25～28・外部 15)		自己評価4項目・外部評価1項目	0	
		25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に見学に来ていただき家族から十分に話を聞くようにしている。認知症のため訴えることが出来ない方が多く家族から聞くことが多いが、出来る限り本人からも話を聴くようにはしている。	0	
		26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学や相談の際、家族が困っていることや不安なことを尋ね、アドバイスなど出来る限り行っている。	0	
		27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の際、本人にとってホーム入居が最善の方法なのか他に良い方法がないのかを見極め他のサービスを紹介したりもしている。	0	
		28 外部評価 15	馴染みながらのサービス利用【外部評価】 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	無理な入居や慌ててサービスを開始したりはせず、説明を十分に行い家族、本人の状況を考慮して徐々に進めている。	0	
		2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 (自己評価 29～34・外部評価 16)		自己評価6項目・外部評価1項目	1	
係り2 継続 これ な ま ま の 支 援	29 外部 評価 16	本人と共に過ごし支えあう関係【外部評価】 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩である利用者から学ぶことは多く共に支えあう環境を築いている。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係作りと支援	新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の変化や行動など家族に伝え共に喜んだり、悩んだりしながら、本人にとって何が良いことなのかを考えている。	0	
		31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人、家族などに話を聞き理解に努めている。	1	遠方の家族との連絡があまり十分とは言えず、今後は密に連絡を取る必要がある。
		32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人などの面会を積極的に受け入れ、また、本人の懐かしいと感じている場所へのドライブなどを行っている。	0	
		33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人ひとりが孤立していることはないが、特に一緒に行動するというものもない。認知症が進行し集団での支援が難しくなっていることもあり、利用者同士の関わりが少ない。	0	
		34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	介護に対して不安がある方などは、退居後も相談を受け付けている。他のサービスの紹介なども視野に入れている。	0	
		その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1～4 (自己 35～51・外部 17～22)				自己評価 17項目・外部評価 6項目
	1	一人ひとりの把握(自己 35～37・外部 17)		自己評価 3項目・外部評価 1項目	0	
	1	35 外部評価 17	思いや意向の把握【外部評価】 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が生きていた過程を理解し、何が一番本人にとって良いことなのかを検討している。又、ケアプランに反映させている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	1 一人ひとりの把握	36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からよく話を聴いた上で本人からの話も聞き把握に努めている。	0	
		37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	家族または本人からの情報を基に一人ひとりをよく観察し、総合的に把握するように努めている。	0	
	2	本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し (自己 38~40・外部 18~19)	自己評価3項目・外部評価2項目	2		
	2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	38 外部評価18	チームでつくる利用者本位の介護計画【外部評価】 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすために職員間で十分に話し合い、介護計画を作成している。家族にも確認をいただいている。	1	本人や家族を含めたプランの検討が必要と思われる。
		39 外部評価19	現状に即した介護計画の見直し【外部評価】 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態が変化した場合は、新たな計画を作成している。	1	本人、家族との話し合いは行っているが十分ではなく、検討の必要がある。
		40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に細やかに記載し情報を共有している。	0	
	3	多機能を活かした柔軟な支援(自己 41・外部 20)	自己評価1項目・外部評価1項目	0		
	3 多機能を活かした柔軟な支援	41 外部評価20	事業所の多機能性を活かした支援【外部評価】 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人へ入院時には面会に行き、なじみのスタッフと顔を合わせるにより、退院されたときホームでの生活が円滑に送れるように対応している。不穩時は自宅に同行し気持ちを和らげている。本人要望に応じ買い物に同行している。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	4		本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 (自己 42~51・外部 21~22)	自己評価10項目・外部評価2項目	3	
		42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察、消防、教育機関等との協力はできている。	1	本人の意向や必要性に応じてとは言えない。
		43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	他事業者との関わりを密に持ち、他のサービス利用が必要となった時に対応できる様にしている。	0	
		44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の時相談したり助言を受けている	1	地域包括支援センターとの協働は、あまりなされておらず、今後の課題である。
		45 外部 評価 21	かかりつけ医の受診支援【外部評価】 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医を尋ね、入居後も継続して医療が受けられる様に支援している。	0	
		46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的な精神科受診で、認知症に関する診断や、治療、又、職員の相談も聞いてもらいアドバイス等を頂いている。	0	
		47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日常的には、ホームの看護師が健康管理を行っている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	4	48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	安心した入院生活と、早期の退院また、退院後の穏やかな生活に向けて、情報交換や相談に努めている。また、頻回に面会に行き状態の把握に努めている。	0	
		49 外部 評価 22	重度化や終末期に向けた方針の共有【外部評価】 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のケアについては、十分に家族やかかりつけ医と話し合いを行い、方針を共有している。	0	
		50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医と連絡を取り合い、今後の変化に備えている。	1	終末期のケアについては、学習が必要である。また、家族の意向を再度確認する必要がある。
		51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ホームから別の場所へ移る際、関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、ダメージを防ぐ様努めている。	0	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1～2 (自己 52～89・外部 23～33)				自己評価 3 8 項目・外部評価 1 1 項目	16	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1	その人らしい暮らしの支援 (1)～(5) (自己 52～81・外部 23～30)		自己評価 3 0 項目・外部評価 9 項目	14	
		(1) 一人ひとり尊重(自己 52～54・外部 23～24)	自己評価 3 項目・外部評価 2 項目	2		
		52 外部 評価 23	プライバシーの確保の徹底【外部評価】 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに考慮し、言葉掛けには十分注意している。個人情報保護にも努めている。	1	十分注意しているつもりではあるが、気付かない内に自尊心を傷付けている可能性もある。常に再確認の必要がある。個人情報については学習が必要である。
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	出来る限り本人に決めて頂いている。本人の要望を十分に取り入れる様努めている。	1	認知症により自己決定が困難な場合が多く、スタッフが決定することが多くなっている。		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	54 外部評価 24	日々のその人らしい暮らし【外部評価】 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り希望に沿う様にしているが、受診や行事がある時などは、出来ない時もある。	0	
		(2)	その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 (自己 55~60・外部 25~26)	自己評価6項目・外部評価2項目	2	
		55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	意思を示すことが出来る入居者に関しては、その様に支援している。又、意思を示す事が出来ない方に対しては、望む店に行っているかどうかは不明である。	0	意思を示す事が出来ない方に対しては訪問美容、理容を利用し身だしなみが出来るように支援している。
		56 外部評価 25	食事を楽しむことのできる支援【外部評価】 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に、能力に応じて食事の片付けを行っているが、認知症の度合いや身体的な能力によって、全く不可能な方が過半数を占めている。入居者が迷っている様な時は、本人を傷つけない様に助言をしている。	0	
		57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物やおやつに関しては、好みのものを可能な限り、日常的に支援している。お酒やタバコに関しては、今のところ要求はなく、病気や医師の指示により出来ない方が多い。	0	
		58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握して、定期的な排泄の誘導を行うことで、出来る限りおむつの使用を減らす様に努めている。	0	
		59 外部評価 26	入浴を楽しむことができる支援【外部評価】 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の状態やタイミングに合わせて支援している。前日に入浴していても、希望があれば応じている。夜間は一人の為、入浴を行っていない。	1	認知症が進んでいるために拒否が多いが、スタッフの工夫した声かけで入浴され、喜ばれている。夜間の入浴希望があれば、検討して行きたい。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室やリビングに自由に休息できる様な環境は整っており、無理のない生活を送っている。	1	自分の意思を示す事が出来ない入居者に関しては、同じ場所に座りっぱなしにならない様、個別的な関わりで対応していきたい。
		(3)	その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 (自己 61~66・外部 27~28)	自己評価6項目・外部評価2項目	1	
		61 外部評価 27	役割、楽しみごと、気晴らしの支援【外部評価】 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居の際、家族や本人に生活歴を尋ね、入居後も出来る限り、能力に応じたその人らしい生活が出来る様支援している。	1	認知症が進んでいるため、意思を示す事が出来なかったり、身体的な能力の低下で、支援出来ないこともあり、検討の必要がある。
		62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している人もいるが、管理能力はないため、本人の要望がある時は、家族と相談してわずかな金額を所持して頂いている。ほとんどの方は、管理能力がなくホームで管理している。	0	
		63 外部評価 28	日常的な外出支援【外部評価】 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気が良いときは、散歩の声かけを行い出掛けている。また、希望があれば出掛けるよう支援しているが、希望はあまりない。	0	
		64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一人ひとりに希望を聞いているが、家族の希望で外出をされる事はある。意思を示す事ができる方が少ない為に、スタッフが考えて個別あるいは一緒に出かけている。	0	
		65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話も手紙も自由にやり取りができる様に支援しているが、電話も手紙も希望が全くなく、又、能力的な問題ではほぼ不可能である。要望に応じて、スタッフが電話をして替わっていることもある。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	訪問時間の制限はもうけておらず、誰もがいつでも気軽に訪問できるようにしている。スタッフも笑顔でお迎えしている。	0		
		(4) 安心と安全を支える支援(自己 67~74・外部 29~30)			自己評価 8 項目・外部評価 2 項目	7	
		67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については理解しているが、他者や本人に危害を及ぼすと判断した場合は、やむを得なく安全ベルトを使用しており、家族に承諾を得ている。	1	勉強会に参加し学習する必要がある。	
		68 外部評価 29	鍵をかけないケアの実践【外部評価】 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵をかけない様にしており、常に入居者の行動を見守っている。不穏状態が著しい時など、やむを得なく施錠する事もある。	1	完全に鍵をかけないケアに今後も取り組んでいきたい。	
		69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に行動を見守り、安全に配慮している。	1	一人で対応している時など、どうしても目が行き届かず、離脱することもあり検討が必要である。	
		70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を 律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ハサミ、爪切りなどは能力に応じて所持している方もあるが、危険と判断した場合は引き上げ、管理している。	0		
		71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	応急処置の方法や、避難訓練など消防署に依頼し指導を受けている。服薬に関しては、スタッフが完全に管理しており、配役の際は呼名して誤薬がない様に努めている。歩行の妨げとなる物は置かない様にしている。	1	重度の認知症のため、理解力が乏しく、転倒を防ぐことが難しくなっており、検討が必要である。	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいき きたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急処置の方法や、避難訓練など消防署に依頼し指導を受けているが、応急処置に関しては定期的ではない。	1	ホーム内の応急手当のインストラクターの資格を持っているスタッフが、定期的に指導をしていく様に行きたい。
		73 外部評価 30	災害対策【外部評価】 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議で災害時の協力を得られる様、働きかけており、避難訓練にも参加して頂いている。	1	具体的な手順などは話し合っておらず、話し合いを持って行きたい。
		74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒、急変の可能性があることなど、十分に説明し、対応策についても理解して頂いている。	1	日頃の家族とのコミュニケーションが十分に取れており、信頼関係が出来ている。今後も信頼関係を深めていきたい。
		(5)	その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 (自己 75～81・外部 31)	自己評価 7 項目・外部評価 1 項目	2	
		75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	直接身体に触れ、熱感はないか、表情、顔色は良いかなどを常に観察している。変わりがあれば、申し送りや記録を確実にし、情報の共有を行っている。急変時の連絡マニュアルも作成している。	0	
		76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をカルテに綴じ、常に確認できる様にしている。又、薬の副作用についても理解する様努めている。症状の変化に対しては、ホームの看護師の指示のもと、速やかに受診をしている。	0	
		77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	身体的な能力の問題で、運動が出来ない場合などは、腹部マッサージを行ったりしている。又、全入居者に対し水分補給に努めている。排泄チェックを行い、医師の指示のもと、緩下剤の調整をしている。	1	散歩を毎日行うことで、身体を動かし便秘を予防していきたい。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人ひとり口腔ケアを行っており、清潔は保たれているが、自立者に関しては、無理強いが出来ず完全に清潔が保たれているとは言えない。	0		
		79	栄養摂取や水分確保の支援【外部評価】 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	運動量や体型に応じて量を調節している。こまめな水分の提供を行い、水分摂取量を記録し確保できているか確認を行っている。	0	嚥下能力の低下した方に関しての、食事や水分摂取が困難になって来ており、専門家の指示のもと対応して行きたい。	
		80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	手洗い、手袋使用を徹底し感染予防に取り組んでいる。インフルエンザに関しては、予防接種の必要性を家族に説明し、接種率は100%である。	0	感染症予防に対する勉強会に参加しているが、知識不足であり、今後も積極的に学んで行きたい。	
		81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は毎日購入し新鮮な物を調理し、その日の内に提供している。刺身などの生物は提供直前に購入している。調理用具等の消毒は毎日行い、衛生管理に努めている。	1	調味料や保存食品の整理を行い、賞味期限の確認も行っている。	
	2	その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)~(2) (自己 82~89・外部 32~33)			自己評価 8項目・外部評価 2項目	2	
	2	(1) 居心地のよい環境づくり(自己 82~86・外部 32~33)			自己評価 5項目・外部評価 2項目	1	
	2 生活環境づくり その人らしい暮らしを支える	82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りの清掃を行い、花を植え親しみやすい雰囲気作りに努めている。	1	看板を立てたり誰もが入りやすい環境を工夫していく必要がある。	
		83	居心地のよい共用空間づくり【外部評価】 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、花を置いたり季節を感じさせる様な物を掲示している。トイレや廊下や天窓に、すだれなどの日よけをして不快な光が入らないように配慮している。調理の際は不快な音を立てない様、まな板下に布巾を敷くなどの工夫を行っている。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでほしい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはくつろぐためのソファを設置し、テレビも見られるようにしている。気の合う利用者と食事が出る様、食事席にも配慮している。又、テラスにはベンチを置いて、外気浴も楽しむことができる。	0		
		85 外部評価33	居心地よく過ごせる居室の配慮【外部評価】 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れたものを持ち込んで頂き、生活の変化に戸惑うことなく居心地よく過ごして頂いている。	0		
		86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気をこまめに行っている。尿臭が強いときは、消臭剤を使ったりしている。温度測定を1日2回行い、温度の調整にも努めている。	0		
		(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり(自己 87~89)			自己評価3項目	1	
		87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、リビング、トイレには手すりを設置し歩行が安全に出来る様になっている。車椅子での移動も可能な様に出入り口は広く作られている。	1	浴室内の手すりが不十分だと思われるため、検討が必要である。	
		88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	残存能力を活かし、自立した生活ができる様に支援している。常に行動を見守り、混乱や失敗を防ぐ様努めている。	0		
		89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	自由に出入りが出来る様になっている。スロープや手すり、ベンチを設置し散歩したり、休んだりできる。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい 内容 (既に取り組んでいることも含む)
サービスの成果に関する項目				取り組みの成果 (該当番号を該当番号欄に入力すること)	該当 番号	
サービスの 成果に 関する 項目	90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない	2		
	91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	1		
	92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	2		
	93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	3		
	95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない	1		
	98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	2		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
サービスの成果に関する項目		99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	2	
		100	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	1	
		101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1	
		102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族と 家族等の2/3くらいと 家族等の1/3くらいと ほとんどできていない	1	
サービスの成果に関する項目				取り組みの成果 (該当番号を該当番号欄に入力すること)	該当 番号	

サービスの成果に関する項目の該当番号は、選択肢の該当番号を示します。

番号の上位は自己評価の項目番号を指します。外部評価項目は、番号欄に網掛けをして外部評価と表示し、外部評価の項目番号を下に表記しています。

項目の横の重点は、外部評価の調査結果で重点項目として概要表に記載される項目です。

また追加は、福岡県が国の参考例に自己評価から外部評価に加えたり、新たに自己評価も含めて独自に追加した項目などです。